

入れ母を驚かせり

百五十一日目にて獨にて坐る事できたり

此頃より婦人と子供といふ雑誌を購讀せり

第二十二週に及びて母親を見知りたるやうに思は

る

咳拂ひと放屁する事は極大なり

三月十四日母と共に母の實家に行けり凡そ三日間

人の顔を見る毎に泣けり見覺ゆるに及びて泣かず

なれり祖父母其他の人々田舎育ちの人見ずと笑へ

り

第二十五週頃より小便をする事に馴れたり

看護法 (承前)

醫學士 長瀬復三郎

(呼吸) これは一寸見ても、氣の付く事ですが、

通例生れたての子供、即ち初生兒から三年迄の子

供は、腹呼吸をする、呼吸を營むに腹と胸とです

る、胸が能く動くとか、腹が僅く動くとか云ふ事が

ある、三年以下の子供は腹呼吸ばかりやつて、子

供の時は口より鼻で呼吸する、其呼吸の數は一分

時間は初生兒は三十二乃至四十四が通例である、

初生兒の呼吸を見るに見て居るだけでは判らぬ、

胸に手を當て、數へれば數へられる、尤もこれは

安息の時、泣いて居る時驚いた時は是れより多

い、それから三年からして四年になると三十五か

らして二十五位までに減ずる、七歳になると二十

から十八に減ずる、これより呼吸が促進になれば

胸に病氣があつて肋膜又は肺の病氣があると云ふ

事が推察される其時は息使ひが荒くなつて鼻翼を

動かして呼吸するから、顔を見ても呼吸が忙がし

いければ何か病氣があると云ふ事の疑を起す事が出来る。

(營養)の事を簡單に言ひますと子供の營養は母乳を以てするが最も宜い事であるが、種々の場合に於て親の乳が出ぬとか、母親が疾病とか云ふ時は、母親の乳を離して他の物を以て養はねばならぬ場合には人工營養法を以てせねばならぬ、それには一番宜いのは牛乳、それから他にはコンデンスミルク、或は肉汁、種々の人の拵へた人工營養料、小兒粉と云ふものもある、さう云ふものを以て養ふて行つて、殆ど一年に達して子供は齒の成長が出来れば、少しの鶏卵の黄味或はヲモ湯とか、或は魚と云ふやうなものを試みて持つて行く、長く母親の乳を與へるは親の健康上にも害があり子

供の發育にも宜い事でない。

斯う云ふ工合に育て上げた子供はどう云ふ疾病が一番多いかと云ふ事である、それを御話をして置いて疾病の模様を言つた方が宜からうと思ふ、子供の疾病の統計と云ふものは、今ではまだ充分な完全なものはない、尤も年齢に従つて罹る疾病も同じでない、併し大體西洋の統計を見れば、疾病に罹る一番多いは第一年で、最も少ないは十歳から十五歳まで、ある、子供の死ぬのも統計から言つても満一歳までが多い、大くなるに従ふて病氣に對しての抵抗力が備はれば備はる程疾病の数が少なくなつて来る、殊に健康を損し易いのは第一ヶ月、生れて初めの月と乳を離す時、一年の誕生日が過ぎたと云ふ位な時です、それから早産の子供、十月の月が足らぬで八ヶ月か九ヶ月で生れた

子供の多く病氣に罹るは、一般に身體の弱い事、或は瘠せて居り又肺臟の萎縮して居る事、肺炎等随分早産の子供は一般に弱いものである、月が満ちて生れた子供でも多くは消化不良驚口瘡膿漏性結膜炎（風眼）黃疸、臍出血、或は破傷風など、云ふものが初生兒の病として多い、次に子供の第四週から第二年の初めまでに罹る病氣は腸胃加答兒とか慢性又は急性胃加答兒腸加答兒が一番多い、それは親達が可愛がる餘りに菓子を食べせ、或は不消化な物を食べさせて見たり、或は不適當なる食料に原因する場合が多いものであるから消化機の病が多い、それから多いは呼吸器の病氣である、喉頭加答兒、氣管支加答兒、毛細氣管支加答兒或は肺炎、そゝ云ふ呼吸器の病氣、第三番目に多いは神經系統の病氣、急痲即ち引き付け、東京

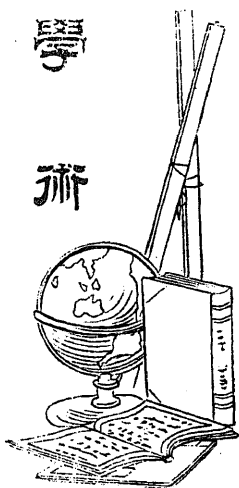
では虫と云ふ、腦膜炎、これにも種々あるですが急性の腦膜炎等が多い、又皮膚病も此時分には出るものである、濕疹、頭又は顔にくさが出来るるか、或は小膿胞疹等が来る、而して傳染病が二年の始までは少ないものである、罹つても麻疹、百日咳に罹るものが多い位で猩紅熱實扶的利亞などは存外少ないものです。然し今年是一年未滿の子供の實扶的利を随分多く見ましたそう云ふ事は稀でしょう。これから結核、これは此時は多いが急性の結核性腦膜炎であるとか他の黴菌によつて來る腦膜炎もある、次に先天性の微毒がある。子供も一年未滿で多く現はれる腺病質癩癰が出來て居るとか云ふものは二年前の子供には少ない。第二年の初めから第六年の終りまでの子供は、多くは呼吸器の病氣が多い、それは子供が五ツ六ツになる

と外へ遊びに行き、寒い日にも學校に行くこと云ふと外氣に觸れる事が多いからでもある、消化機の病氣は第二番目に居る、小兒の五六歳になると消化力が二歳位の子供より力が増すから消化機の病氣が少ない、傳染病は二歳から六歳までに多い麻疹百日咳、耳下腺炎、水痘、實扶的利、斯う云ふ傳染病が此時期に於て多く現はるゝ、又腺病、首の圍りにグリグリが出来るとか云ふやうなものも二年から六年までの者に多い、神經系統の腦膜炎とか急癩は二年までの者に比ぶれば少ない、六年から十五年までの子供には六年になつて學年に達するものであるから所謂學校病と云ふものが起る、近視眼或は脊椎の側彎機が高いとか低いとか、身體の位置が悪くて起る、又頭痛、習慣性の衄血と云ふやうな病氣が多くなる、隨分學校の媒介によ

つて傳染する所の猩紅熱、麻疹、痘瘡、水痘實扶的利、百日咳と云ふやうなものが此時分には多くなつて来る、吸呼器系統の病氣にも隨分罹り易いが殊に肺炎、これには二ツある、クルブ性の肺炎は重い方である、これに罹るが多い、又肺結核も多い。

前述の事を一括にすれば子供の病氣に罹り易いは消化機の病氣が一番多い、何となれば子供の病氣の多いのは一年から二年の初めですからそれに依つて見ても此時代の子供は消化機の病氣が多い、其次は呼吸器の病氣が一番多い、傳染病は第三番目、第四番目に居るものである、比較的少なきは泌尿器の病氣或は心臟病である。大人と違ふて血行器病が少ないと泌尿器病、腎臓の病氣、膀胱の病氣と云ふものは存外少ない、四五歳の子供には

慢性の腎臓炎又は血液中の色素が尿に混つて出る病氣等も無い事はないが、さう云ふ病氣は大變少ない。(つゞく)



學 術

英語俚諺解 (承前)

擊 水 生

On Income and Expenditure.
 収入、支出に關して

Better go to bed supperless than rise in debt.

借金をもて起さるよりも、夕食をこらえて寢床に入るに如かず。

Only that which is honestly got is gain.

たゞ正直なる所得のみ所得とひふくし。

A man in debt is caught in a net.

借金せる人は、網に罹れる者となふくし。

It is hard to pay for bread that has been eaten.

eat.

食へて終つたパンの代價を拂ふは、困難なり。

Debt is the worst poverty.

借金は、最悪の貧乏なり。

He is rich enough who owes nothing.

何も借らない人は、十分に富める人なり。

The greatest wealth is contentment with a little.

little.